第 37 回全日本学生チアリーディング選手権大会に向けて

第 12 回チアリーディング世界選手権大会は 12 月 13 日、第 37 回全日本学生チアリーディング選手権大会は翌 14 日に高崎アリーナ（群馬）で開催される。

世界選手権大会 チアリーディング シニア女子、学生選手権大会 自由演技競技ディビジョン 1（競技部門・女子）でいずれも優勝を狙うのが日本体育大学 VORTEX だ。

8 月の JAPAN CUP2025 日本選手権大会はディビジョン 1 大学部門を 4 年ぶりに制覇。再び目指す頂点への道になる。大会に懸ける思いをヘッドコーチ（以下、HC）にインタビューした。

Q 大事な大会が迫ってきました。ここまでの仕上がりはいかがでしょうか。

HC 「ベースはジャパンカップのままで、大幅には構成を変えていないです。夏をベースに、自分たちができることを増やして、ボリュームアップさせた演技になります。夏にやりたかったリワインド 1 1 1 も選手が一生懸命練習して入れることができました。1 年間の集大成となるので、みんなの成長と思いがたくさん詰まった 2 分 30 秒になっています。実際には、先週まで挑戦していた技もありましたが、全体の流れと完成度を見て変更するなど、今は最終調整を行なっています。」

Q 夏のジャパンカップを４年ぶりに制し、世界選手権大会と全日本学生選手権でも優勝への期待が高まっていると思います。

HC 「ジャパンカップのディビジョン１で優勝できて、すごく嬉しかったです。ただ、ほんの少しの悔しさが残った大会でもありました。準決勝で崩れてしまったトリプルアップ３本を決勝で決めることができた一方で、最後の最後にフルトウタッチが決められなかった。大きな喜びと共に悔し涙を流しながら手にした優勝でした。

Q　そこから、この３ヶ月間、選手はどんな様子でしたか。

HC「まず、キャプテンが　～（ジャパンカップは）ノーミスの演技ができたわけではないので、絶対に次は、みんなで笑顔で日本一を取ろう！~と伝えています。ジャパンカップは悔し涙を流した選手がいて、上げた選手も、受けとめた選手も、どこかに悔しさを抱えながら流した涙でした。
毎日、全員があの瞬間を忘れることなく挑戦しています。ジャパンカップの決勝はノーミスで終盤まできて、大きなプレッシャーがかかることを経験した。今度こそは、みんなで、みんなのために、決め切って終わりたい。この 16 人とだからできる演技をやり切って世界一、日本一に輝きたい気持ちです。

Q ４年生にとっては最後の大会になります。

HC「コロナ禍に入ってきた最後の年代で、４年生は７人しかいません。人数は少なくても個性豊かな選手が揃っています。明るくて、元気で、チームのために何ができるかを考えてくれています。関東選手権、ジャパンカップと教育実習や怪我で出られなかった４年生がいました。この学生選手権は、７人みんながそれぞれの場所で大会に出ることができます。そこには、人生最後の大会、青マットに立ちたいという強い思いと努力がありました。彼女たちを笑って終わらせてあげたい。」

Q　最後に世界選手権大会、学生選手権大会への意気込みを聞かせ下さい。

HC「2 年前の世界選手権大会ではミックス（男女混成）で優勝することができたのに、その次の学生選手権大会はディビジョン１で３位でした。せっかく日本代表に選んで頂いたのに、学生選手権で負けたのは大きな反省として記憶に残っています。自分たちに足りないものがあった。あの２年前の大会を、今の４年生と３年生は経験している。今年は波があった時期もありましたけど、今はみんなが自分たちがやるべきことをやれる状態です。１曲目から、コール、そして２曲目と入っていく。夏よりも、VORTEX が成長した姿を見せたい。私の記憶ではジャパンカップと学生選手権の２冠は、今までなかった。少ない人数でもここまで頑張ってきた４年生たちを、勝って、日本一のメンバーとして、送り出したいと思っています。」

本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。
Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.